



# Shadow clothing

～まちを包むやわらかい影～

ヒートアイランド対策にもさまざまな手法があるが、その多くは自治体や企業レベルでの大規模なインフラ整備や莫大な資金が必要なものであると感じる。それに対して私たちは、個人や地域で取り組めるような簡素な手法とヒューマンなスケールでヒートアイランド対策にアプローチしたいと考える。

個人や地域といった小さな単位での取り組みの積み重ねによって達成されることで一人ひとりの意識を高め、かつそれが地域の活性化やコミュニティの力につながる魅力的な空間を作り出すことができれば、単なる「ヒートアイランド対策」以上の意味を獲得することができるのではないか。

現代において「エコ」という言葉はもはや目的ではなく、手段であり道具である。

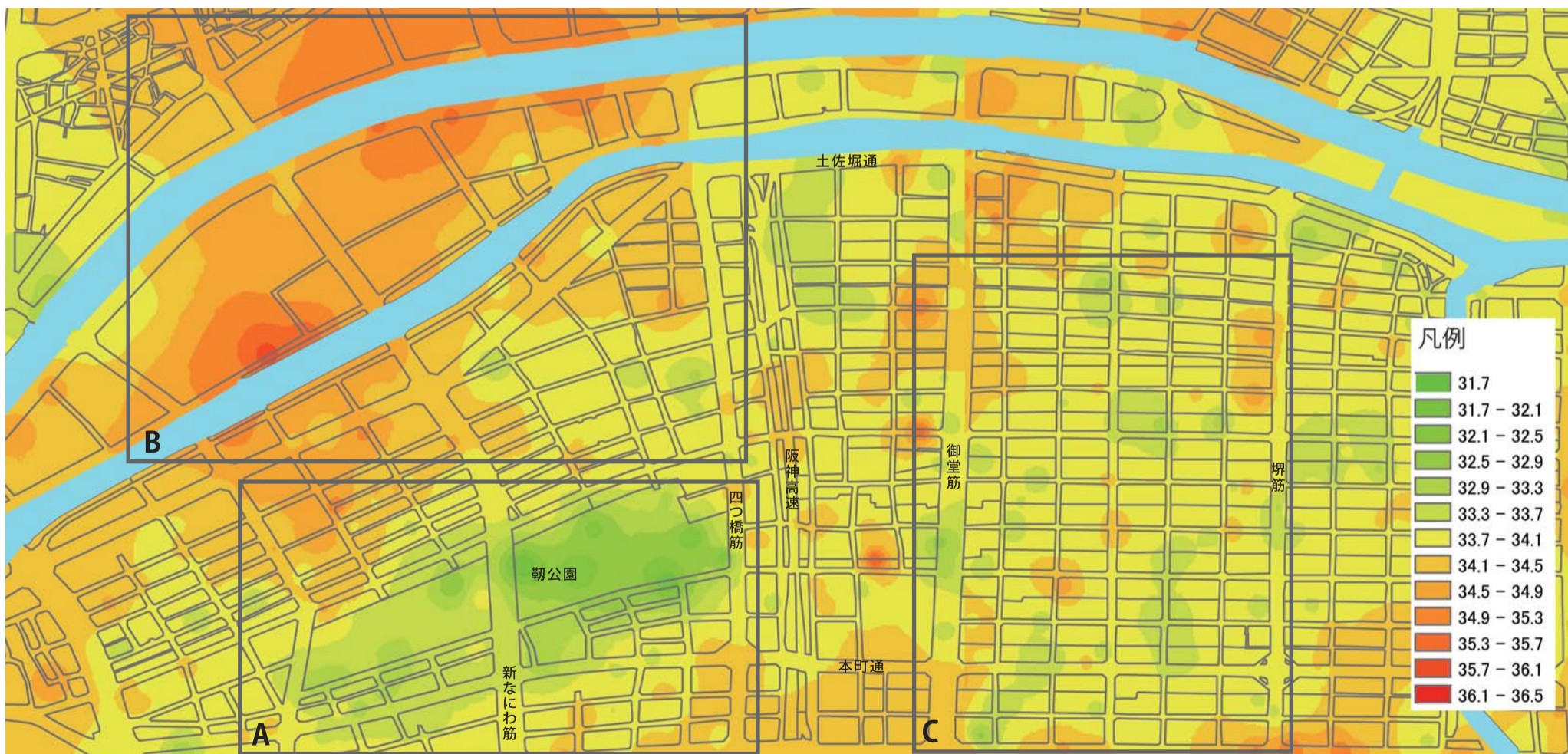
## ■大阪市の熱環境

ヒートアイランドの現状を知るため、以下のような熱環境調査を実施した。

### ・調査手法

#### 《移動実測》

2009年8月8日（晴天）に、自転車10台にそれぞれGPSと温度計（時定数1秒）を設置して30分間対象エリアを移動し続け、後にGISを用いて分布図を作成した。対象エリアは下図全域。



### ・考察

最も低い温度分布が観測されたのは土や植物が大規模集中的に存在するA[鞆公園周辺]。

最も高い温度分布が観測されたのはB[中之島を挟む河川周辺]である。

C[本町周辺]は平均的に高い温度分布であるが、影や排熱などの複合的な要因によって、複雑な分布状況となっている。

鞆公園には木々がもたらす影が豊富にあり土や植物が熱を溜め込むことなく快適な温度を保っているのに対して、河川周辺は涼しそうイメージとは逆に日光を遮るものがなく地表面もアスファルトで覆われているところが多いため、かなりの熱量を蓄えていることがわかった。

このことから私たちは、「影」がヒートアイランドにもたらす影響の大きさを読み取った。影を少しずつでも作り出し、地表面に届く日射量を減らすことができれば、涼しい街路空間というだけでなく建物に対する熱負荷も減らすことができると考える。